

2

宇城市の現状

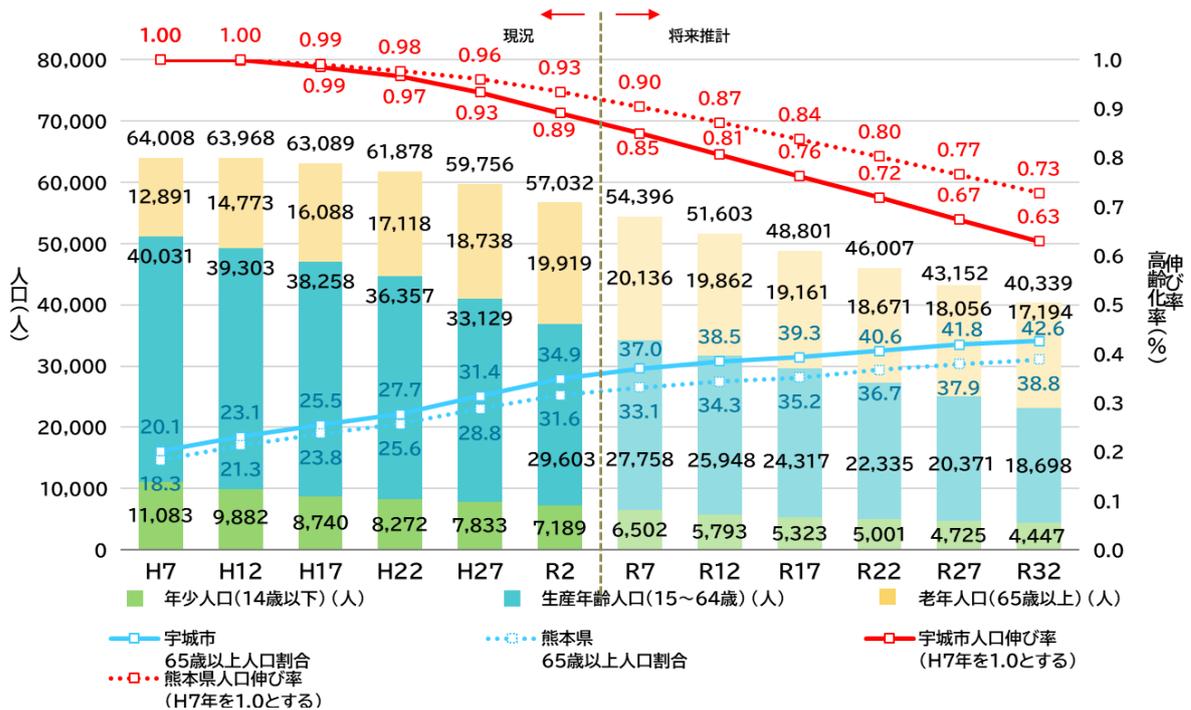
1 地域特性

1 市全体の人口等の推移

市全体の人口は、減少傾向にあり、平成7年から令和2年までの25年間で11%減少しており、熊本県全体（7%減少）に比べて減少率が大きい状況です。

一方、高齢化率（65歳以上の人口割合）は令和2年に約35%になり、25年間で15ポイントも上昇している状況で、こちらも県全体を上回って高齢化が進んでいます。

この傾向は、将来的にさらに進行する予測となっており、令和12年にはこれまで増加していた65歳以上の高齢者人口も減少に転じ、人口減少がさらに進行する見込みです。



▲宇城市の人口及び高齢化率の推移

出典：国勢調査

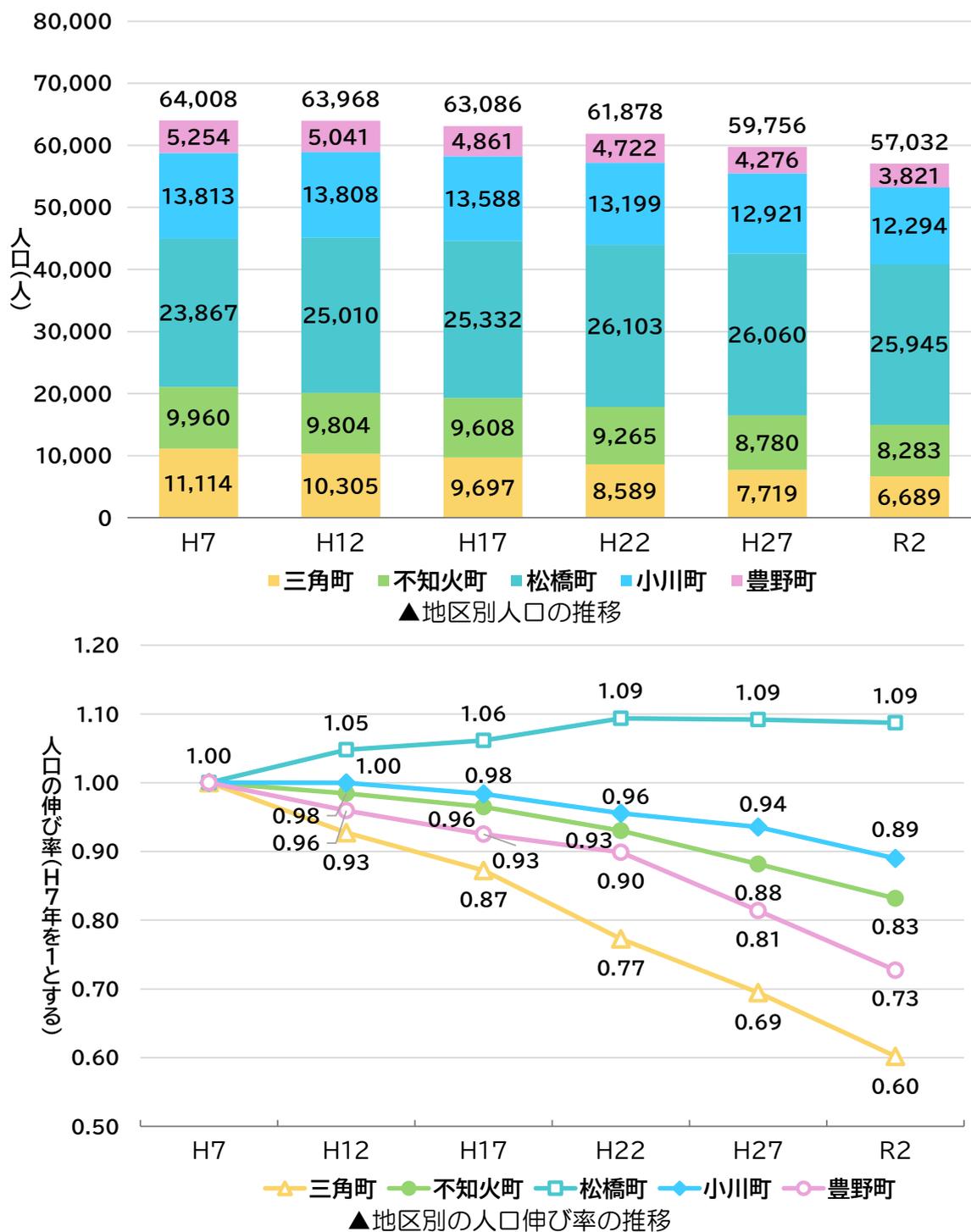
国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口 (令和5年(2023年)推計)

2 地区別の人口特性

1) 地区別人口

令和2年の市内の5地区の人口は、松橋町が約26,000人で最も多く、近年はほぼ横ばいで推移しています。

一方、他の4地区は年々減少しており、特に三角町と豊野町では人口減少が著しく、平成7年からの人口伸び率が三角町では0.60、豊野町では0.73となっています。

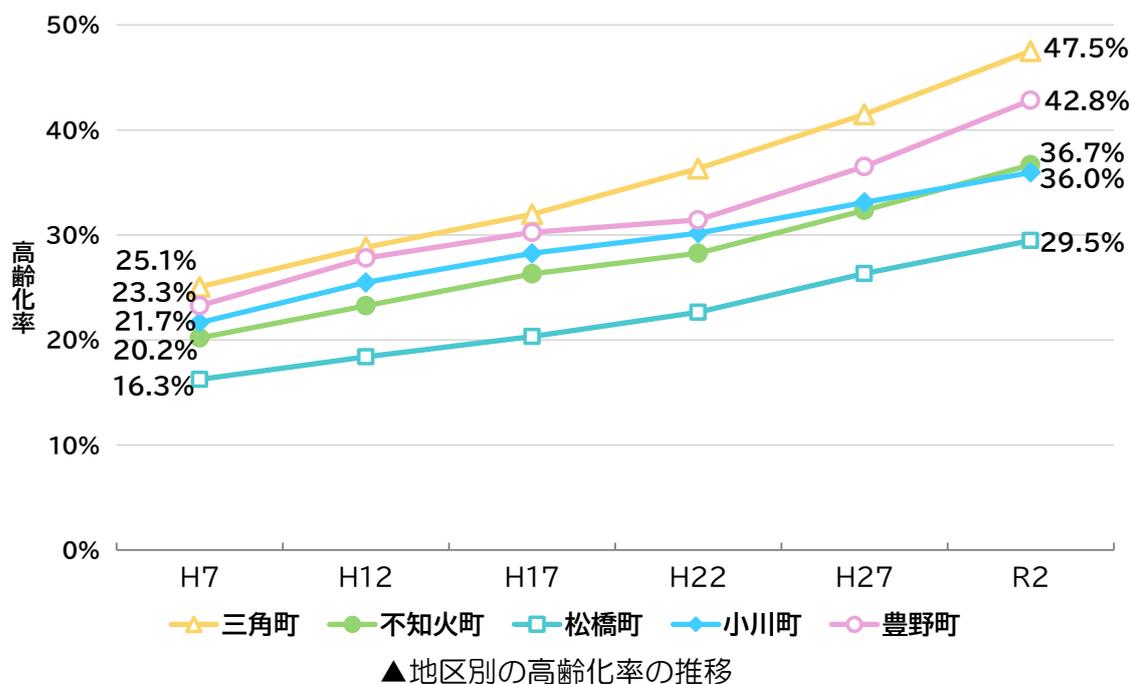
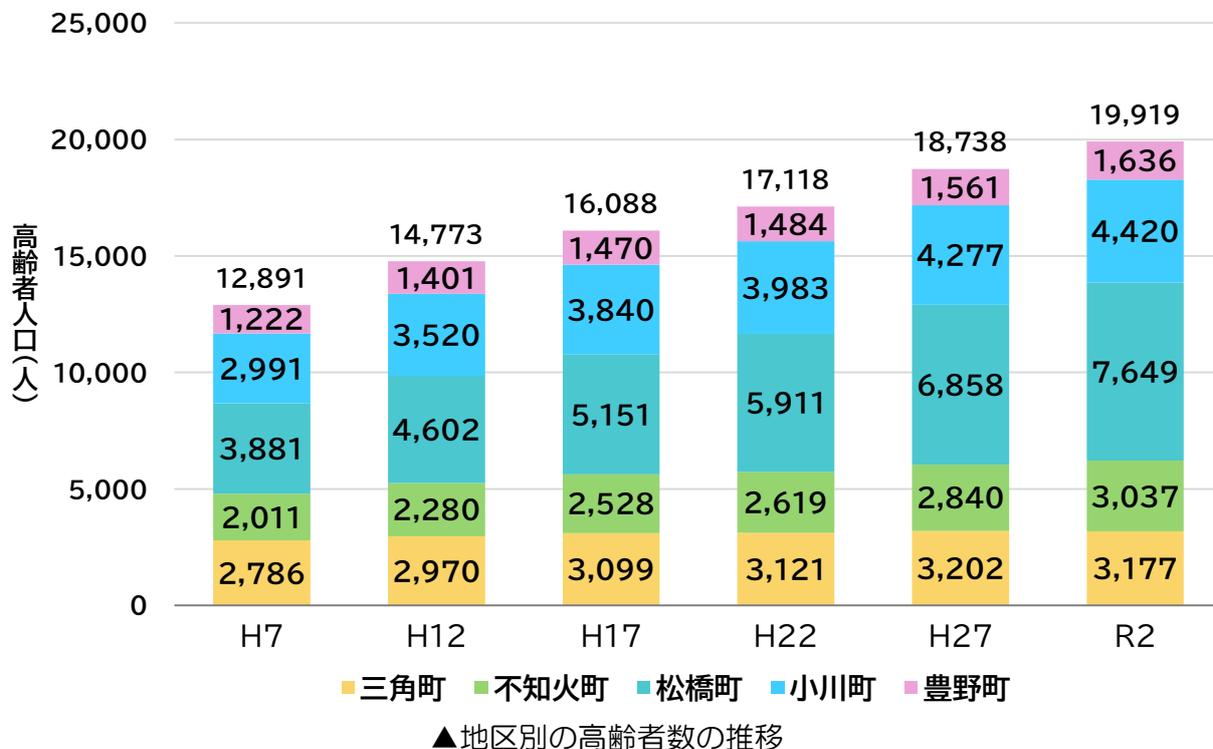


出典：国勢調査

2) 地区別高齢化率

市内の5地区の高齢者人口は、年々増加傾向にあります。三角町では令和2年に高齢者人口が減少しています。

高齢化率は、5地区とも年々上昇傾向にあり、最も低い松橋町は約30%となり、最も高い三角町では約48%と人口の約半分が高齢者となっています。



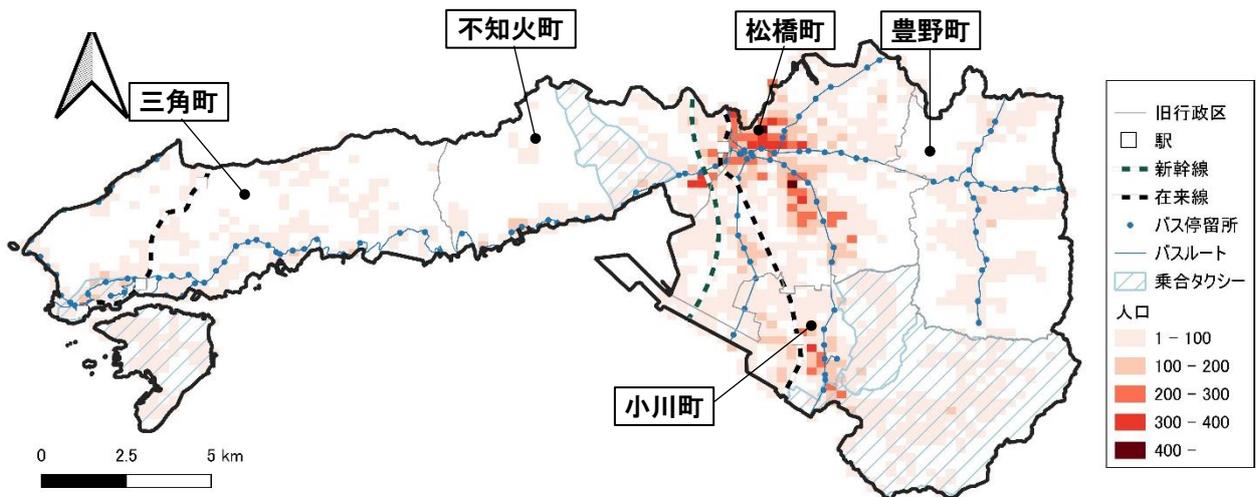
出典：国勢調査

3 人口分布等の特性

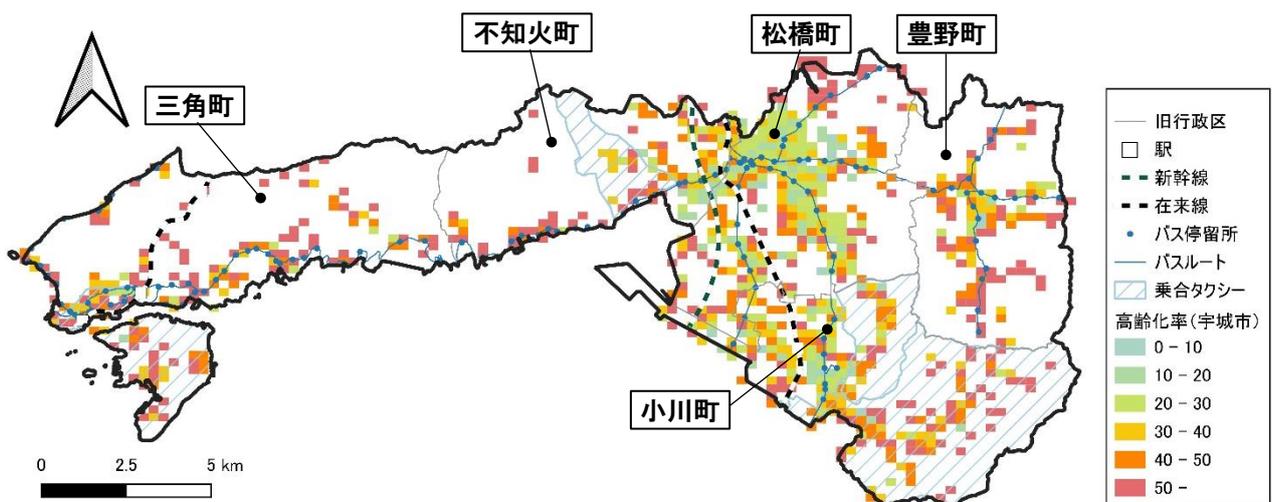
人口の分布は、松橋町の市街地部に人口が集中しており、その他は小川町の駅周辺に人口集積しています。バス路線のある幹線道路周辺は人口が薄く広がっている状況です。

また、三角町や不知火町の沿岸部や山間部、豊野町や小川町の山間部に人口が点在しています。これらの地域においては、市街地や鉄道沿線と比較して高齢化率が高い状況にあります。

【人口分布】



【高齢化率の分布】



▲人口及び高齢化率の分布

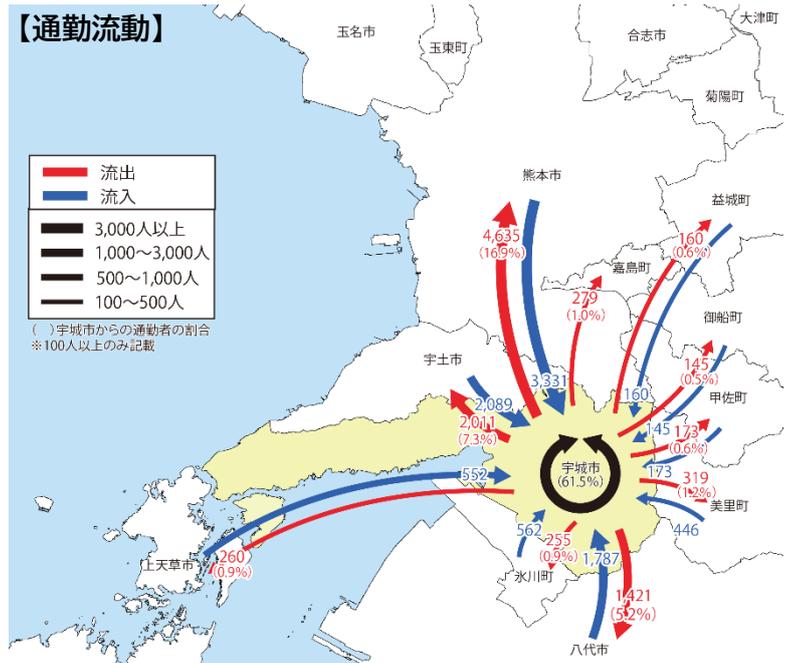
出典：令和2年国勢調査（250m メッシュ）

4 通勤・通学流動状況

1) 通勤流動

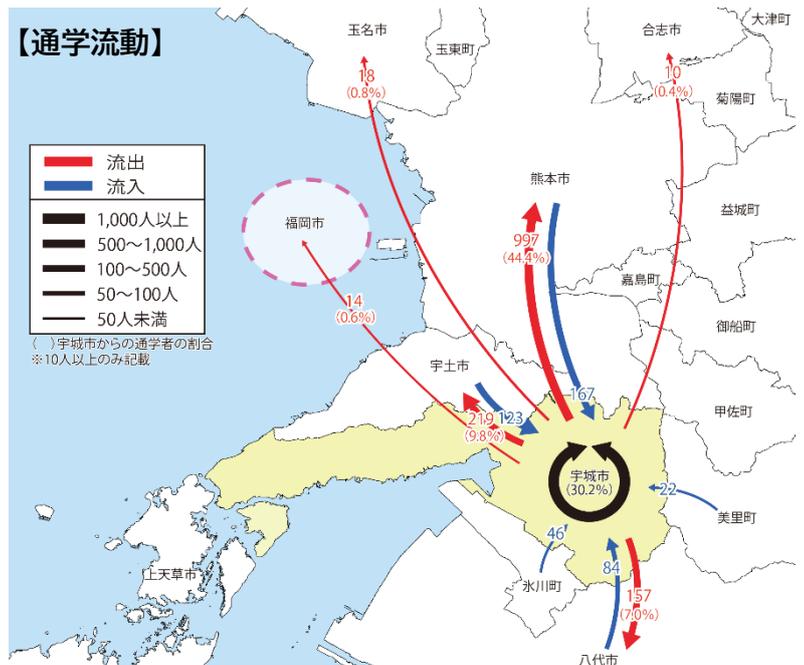
令和2年の15歳以上の市内居住者の通勤先は、市内が61.5%を占めています。

市外への通勤先で、最も多いのは熊本市(16.9%)で、次いで宇土市(7.3%)、八代市(5.2%)の順となっています。



2) 通学流動

令和2年の15歳以上の市内居住者の通学先は、市内が30.2%と低く、半数近くが熊本市(44.4%)へ通学しています。



▲通勤・通学流動図

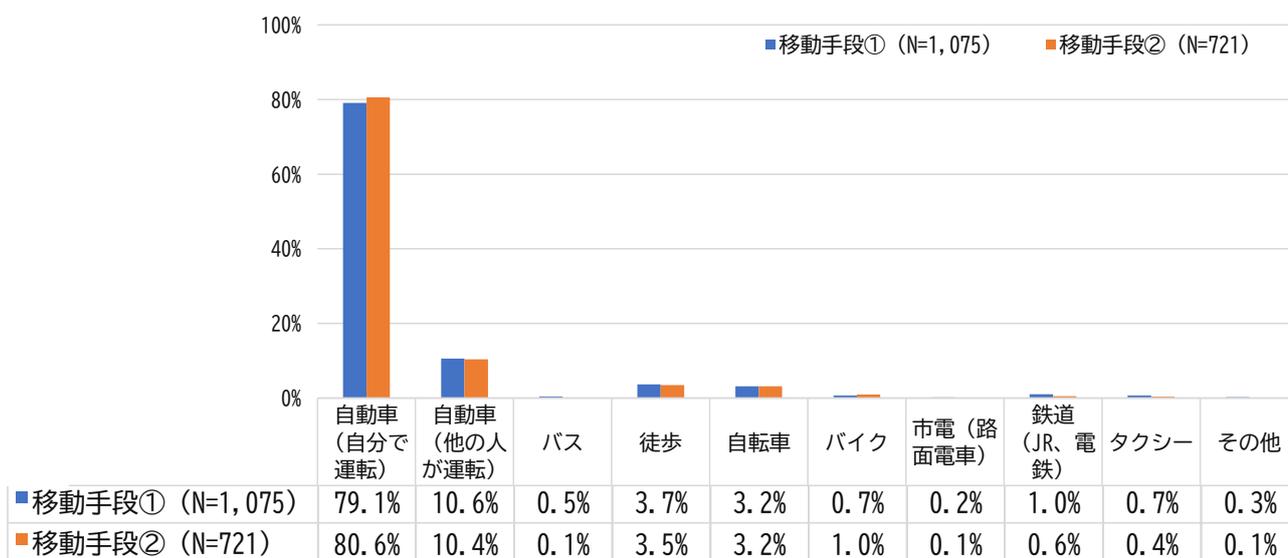
出典：令和2年国勢調査

5 買い物状況

1) 買い物の移動手段

買い物の移動手段としては、約 80%が「自動車（自分で運転）」、約 10%が「自動車（他の人が運転）」となり、大部分が自動車で移動しています。

公共交通（バス、市電（路面電車）、鉄道（JR、電鉄））の割合は、2%未満であり、公共交通はほとんど利用されていない状況です。



▲ 買い物の移動手段

出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

調査票では買い物の主な目的地を2箇所とそれに対応する移動手段を回答

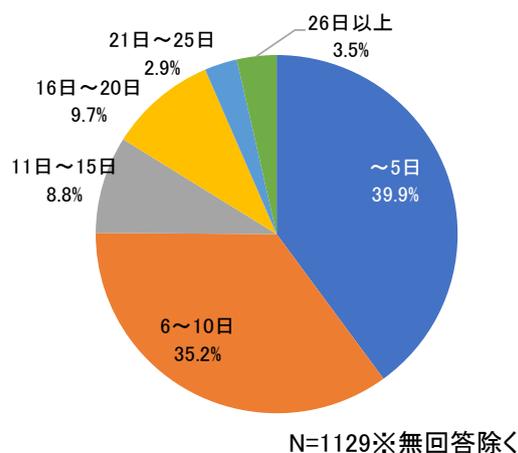
移動手段①：買い物の主な目的地の1つ目の施設への移動手段

移動手段②：買い物の主な目的地の2つ目の施設への移動手段

2) 買い物の頻度

月の買い物の回数として、5日以下が最も多く 39.9%、続いて6～10日が 35.2%を占めており、少ない回数でまとめて買い物をする傾向が見られます。

一方で、残りの 24.9%は月に11日以上、つまり3日に1回以上の頻度で買い物をしている状況です。



▲ 買い物の回数（1ヶ月あたり）

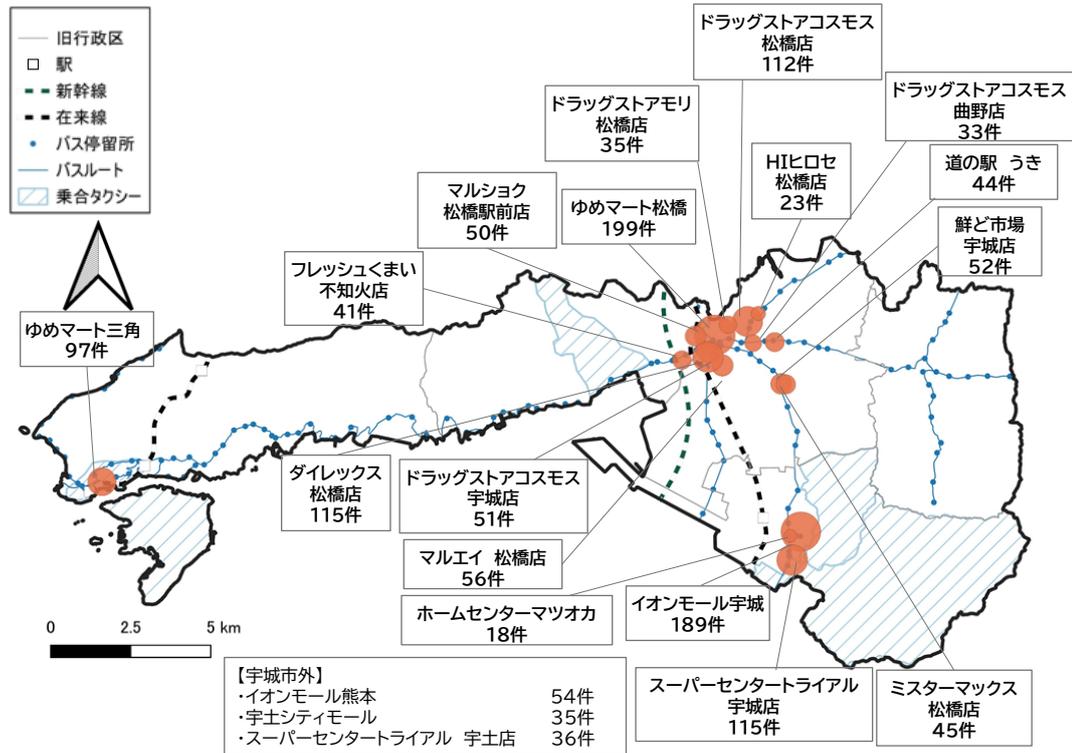
出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

3) 買い物の目的地

買い物の目的地としては、「ゆめ마트松橋」199件、「イオンモール宇城」189件、「スーパーセンタートライアル宇城店」115件、「ドラッグストアコスモス松橋店」112件、「ゆめ마트三角」97件の順となっています。

松橋町を中心に、小川町や三角町も含めた宇城市内の施設への買い物が多い状況ではありますが、一部市外への買い物も確認されました。



▲ 買い物の目的地

出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

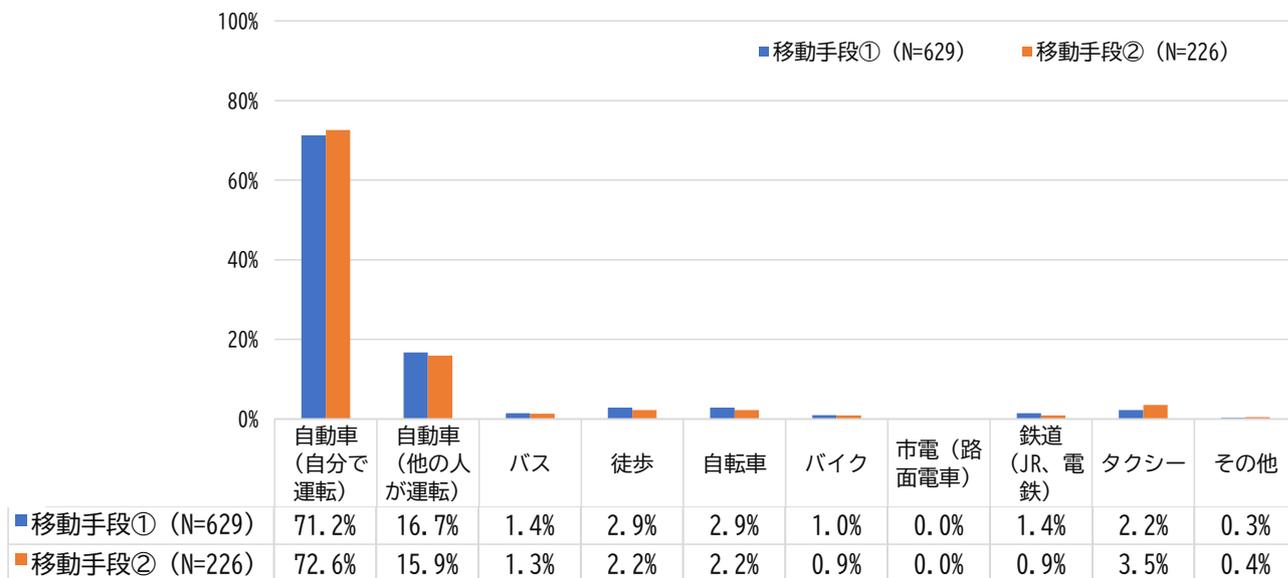
調査票では買い物の主な目的地を2箇所とそれに対応する移動手段を回答
目的地として、回答が多くあった上位20箇所を図示

6 通院状況

1) 通院の移動手段

通院の移動手段としては、約70%が「自動車（自分で運転）」、約15%が「自動車（他の人が運転）」となり、大部分が自動車で移動しています。

公共交通（バス、市電（路面電車）、鉄道（JR、電鉄））の割合は、2～3%程度であり、公共交通はほとんど利用されていない状況です。



▲通院の移動手段

出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

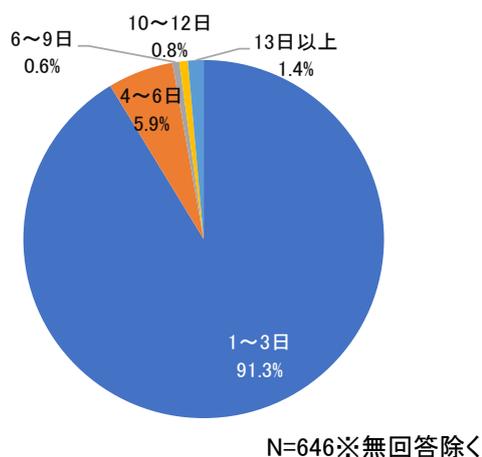
調査票では通院の主な目的地を2箇所とそれに対応する移動手段を回答

移動手段①：通院の主な目的地の1つ目の施設への移動手段

移動手段②：通院の主な目的地の2つ目の施設への移動手段

2) 通院の頻度

1ヶ月あたりの通院回数として、1～3日が91.3%と大多数を占めています。



▲通院の頻度（1ヶ月あたり）

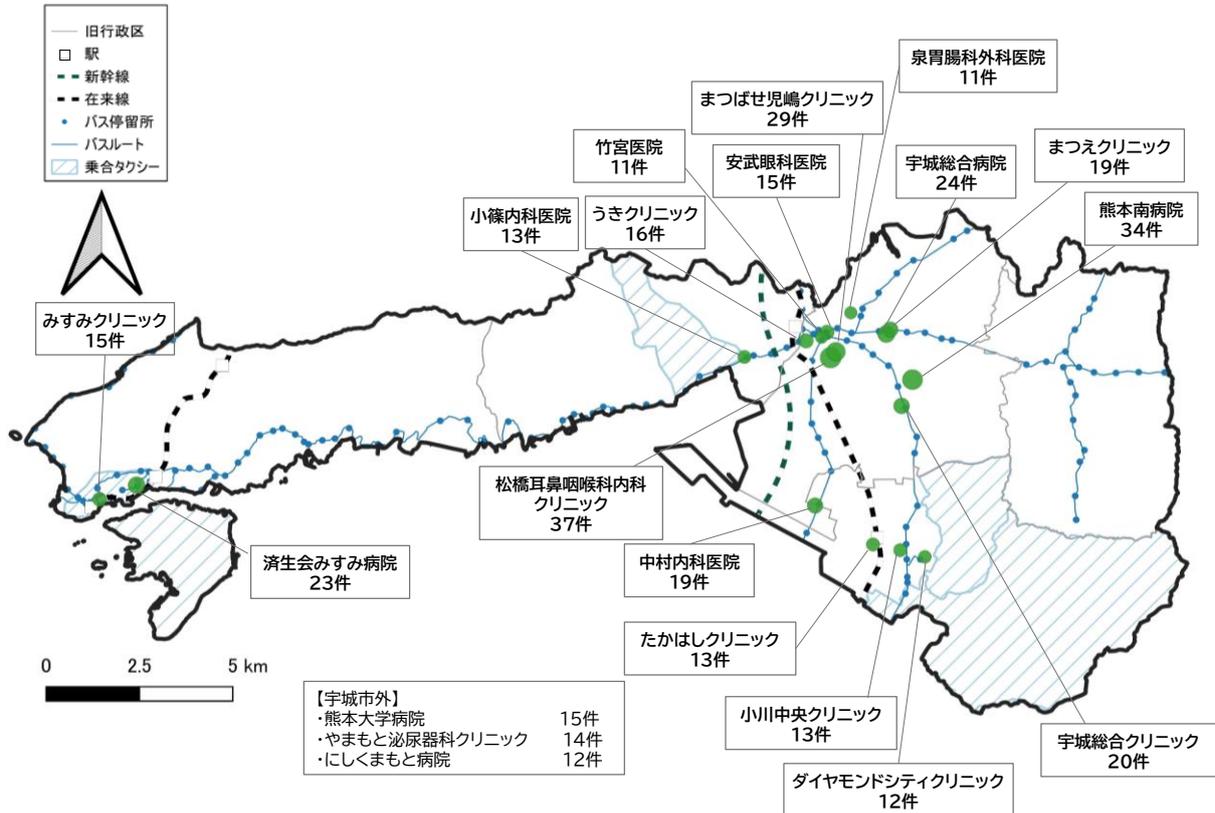
出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

3) 通院の目的地

通院の目的地としては、「松橋耳鼻咽喉科内科クリニック」37件、「熊本南病院」34件、「まつばせ児嶋クリニック」29件の順となっています。

松橋町を中心に、小川町や三角町も含めた宇城市内の医療機関への通院が多い状況ではありますが、一部熊本市や宇土市の市外への通院も確認されました。



▲通院の目的地

出典：令和5年度熊本都市圏パーソントリップ調査付帯調査

※付帯調査対象者のうち、宇城市内の居住者を抽出（N=1,316）

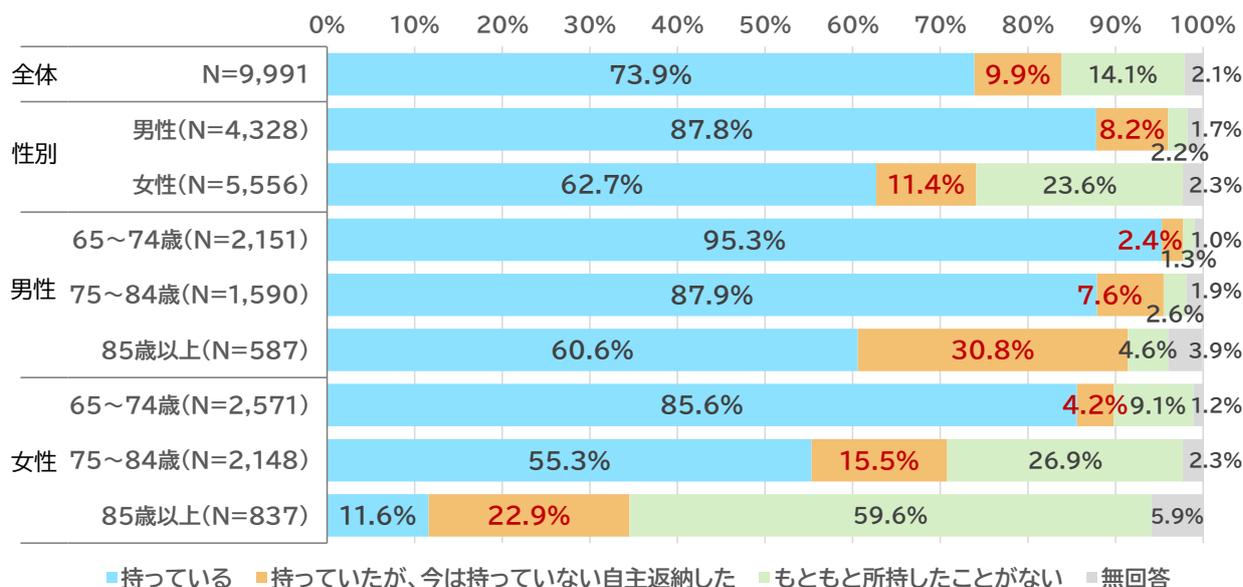
調査票では通院の主な目的地を2箇所とそれに対応する移動手段を回答
目的地として、回答が多くあった上位20箇所を図示

7 運転免許証保有状況

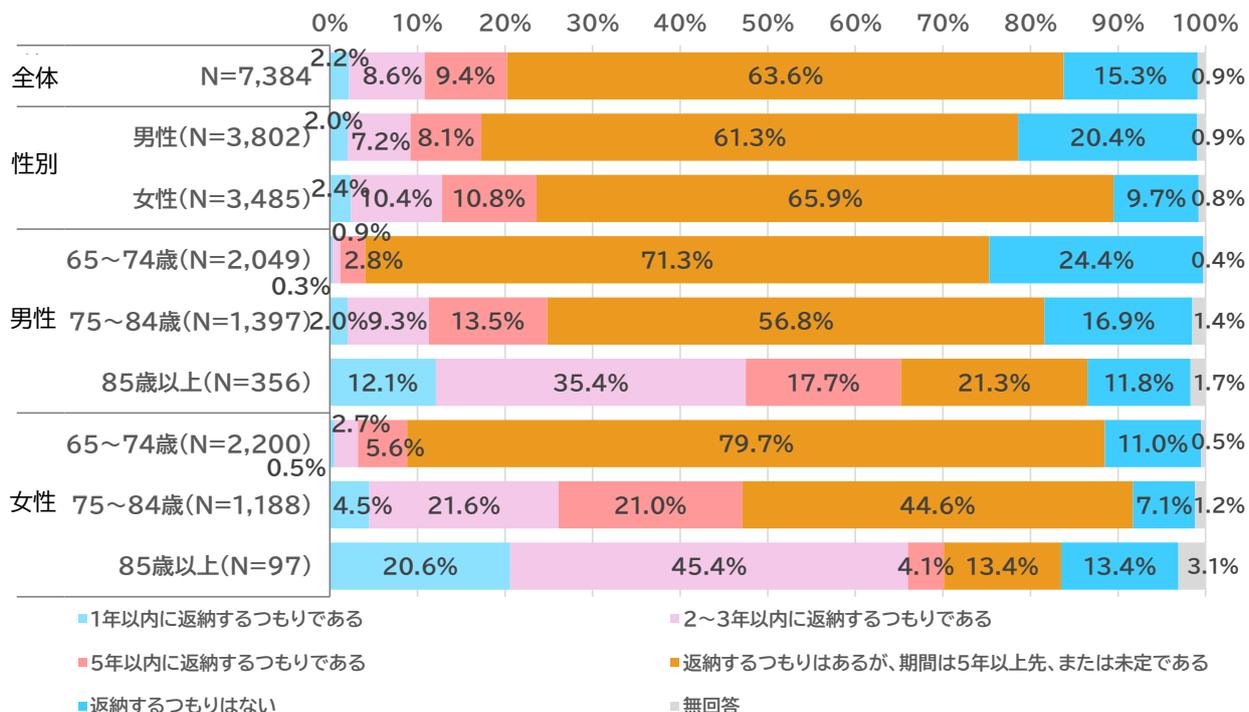
65歳以上の高齢者の運転免許証保有率は、73.9%で、男性より女性、及び年齢層が高いほど保有率が低くなっています。下記のグラフの全体では、免許を自主返納した割合は10%前後となっていますが、85歳以上では20~30%と高くなっています。

また、運転免許証の返納意向は、65歳以上の全体では、「返納するつもりはあるが、期間は5年以上先、または未定である」が63.6%と最も多く、次に「返納するつもりがない」が15.3%となっています。

【運転免許証の保有状況】



【運転免許証の返納意向】



▲運転免許証の保有・返納状況

出典：介護予防・日常生活圏域二一ズ調査（宇城市.R5）

2 地域公共交通の現状

1 地域公共交通網

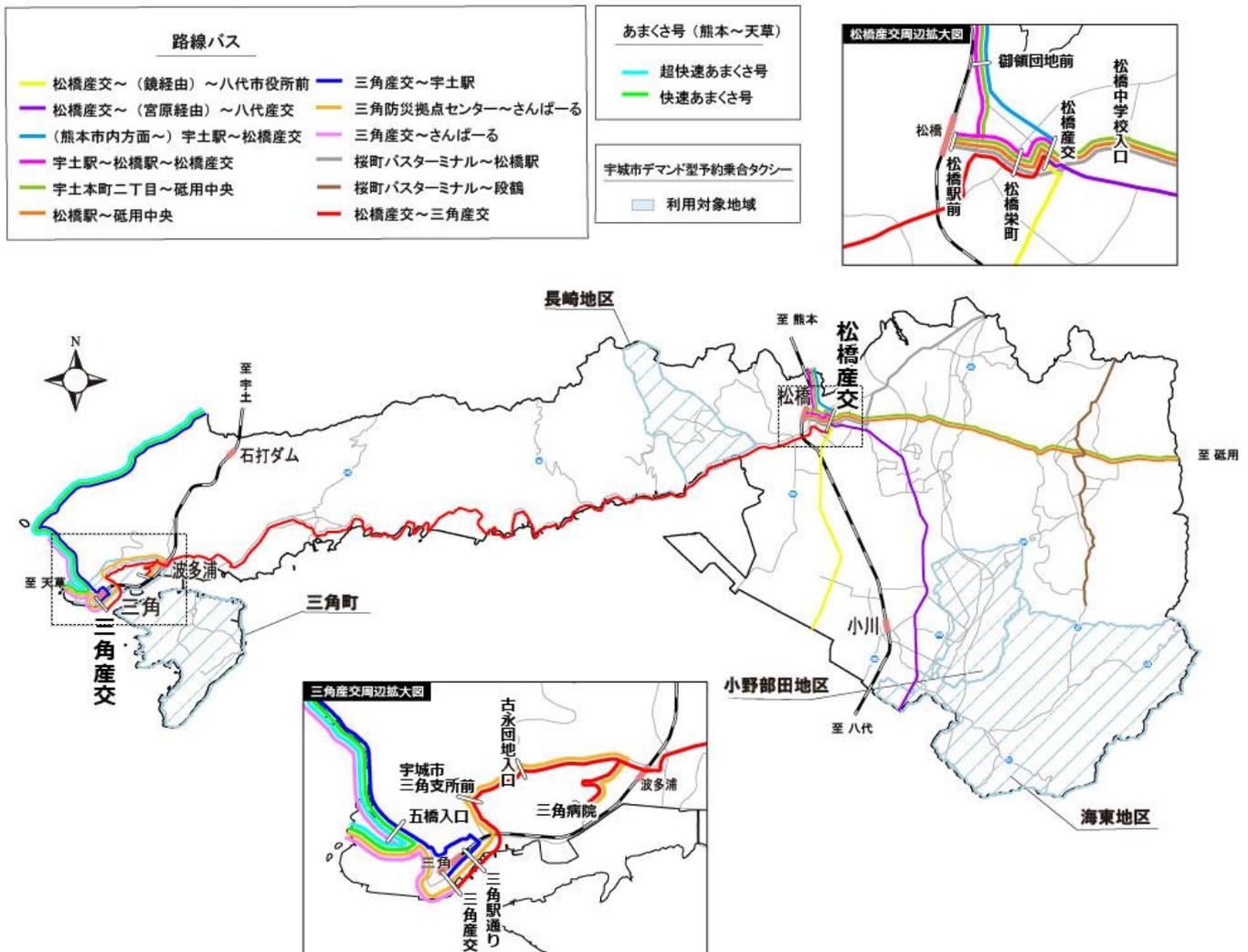
1) 地域公共交通の運行状況

本市の公共交通網は、JR（鹿児島本線・三角線）、路線バス、及び乗合タクシーから形成されています。

JR は、鹿児島本線の松橋駅、小川駅、三角線の石打ダム駅、波多浦駅、三角駅が立地しています。

路線バスは、松橋産交と三角産交を中心に路線網が構築されています。なお、令和4年度末を持って、三角産交-大口線、三角産交-小田良線、黒崎環状線は廃止となりました。

乗合タクシーは、三角町、長崎地区、小野部田地区、海東地区で運行しています。三角町では、令和5年3月まで戸馳地区のみの運行でしたが、上記の黒崎環状線の廃止に伴い東港四区・東港五区・赤岩・黒崎・金桁のエリアに拡大しました。



▲地域公共交通網の状況

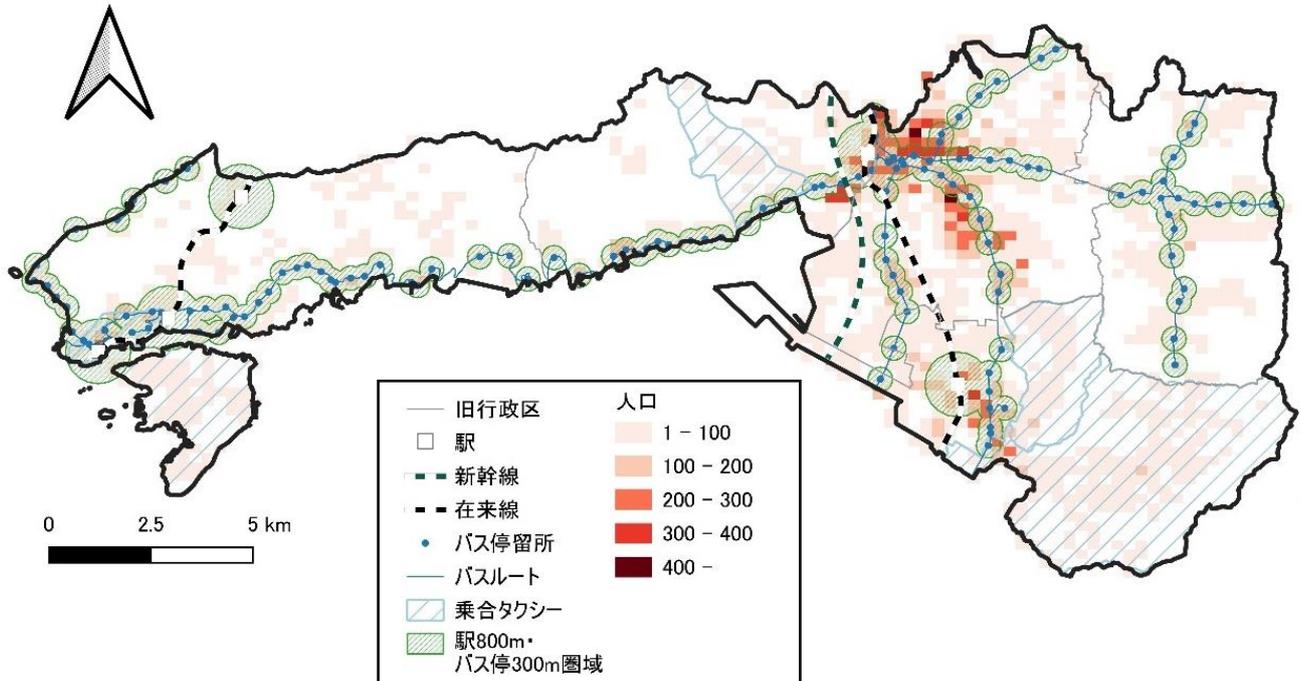
※令和6年時点

2) 地域公共交通の空白地

「宇城市立地適正化計画」では、鉄道駅から 800m 圏外、またはバス停から 300m 圏外を公共交通空白地域と定義しています。

本計画では、鉄道駅から 800m 圏外かつバス停から 300m 圏外、さらには乗合タクシーの運行エリア圏外を交通空白地として位置づけます。

交通空白地には、約 22,000 人が居住している状況です。



▲交通空白地の分布

出典：令和 2 年国勢調査、国土数値情報、市資料
※令和 6 年時点

2 地域公共交通のサービス水準

鉄道は、鹿児島本線（松橋駅、小川駅）が平日に40便/日程度、三角線（石打ダム駅、波多浦駅、三角駅）が平日に16便/日程度運行しています。

三角線では、土日祝日に特急「A列車で行こう」が運行されています。

路線バスは、快速あまくさ号を含めた天草市方面、宇土市方面、八代市方面の路線の本数が市の路線では比較的多い状況です。

また、令和5年10月に三角産交～さんぱーる、令和6年4月に三角産交～松橋産交、三角産交～宇土駅では減便が行われました。

▼鉄道・路線バスのサービス水準

【JRの運行本数】

	平日			土日祝日		
	上り (熊本方面)	下り (八代方面)	計	上り (熊本方面)	下り (八代方面)	計
松橋駅	45	43	88	45	43	88
小川駅						

	平日			土日祝日		
	上り (熊本方面)	下り (三角方面)	計	上り (熊本方面)	下り (三角方面)	計
石打ダム駅	16	16	32	16	16	32
波多浦駅				18※	18※	36
三角駅						

※特急「A列車で行こう」を2便含む

【路線バスの運行本数】

系統	平日	土曜日	日祝日	系統	平日	土曜日	日祝日
快速あまくさ号	20	20	20	松橋産交～三角産交	12	8	0
松橋産交～（鏡経由） ～八代産交	19	12	12	三角産交～宇土駅	10	8	0
松橋産交～（宮原経由） ～八代産交	22	18	18	三角防災拠点センター ～さんぱーる	16	0	0
（熊本市内方面～） 宇土駅～松橋産交	52	41	36	三角産交～さんぱーる	16	12	12
宇土本町二丁目 ～砥用中央	2	2	0	桜町バスターミナル～松橋駅	8	4	0
松橋駅～砥用中央	20	19	16	桜町バスターミナル～段鶴	1	2	0

出典：各交通事業者HP
※令和6年時点

本市では、交通空白地の解消のため、4地区で乗合タクシーを導入しており、各地区から旧町の中心部まで運行しています。三角町では、令和5年4月から黒崎環状線の廃止に伴い、運行エリアを拡大しました。

乗合タクシーは、1日2～6便の定時運行を行い、午前の便は前日、午後の便は前日もしくは当日の午前までに予約する形態となっています。

▼乗合タクシーのサービス水準

対象	運行日	運行便数	運行ダイヤ	予約時間	利用料金
三角町	月曜日 ～土曜日	戸馳地区・東港四区・東港五区・赤岩区方面発 ⇒三角中心部着 平日5便 土曜2便	戸馳地区・東港四区・東港五区・赤岩区方面発 ⇒三角中心部着 (平日) 8:00,9:30, 11:00,13:00, 15:00 (土曜) 9:00,13:00	午前の便 前日の 17:00 まで 午後の便 当日の 12:00 まで	戸馳地区 ⇔戸馳郵便局・佐藤医院等：200円 東港四区・東港五区・赤岩区・黒崎区 ⇔目的地：200円 田井浦地区・金桁区 ⇔目的地：250円 内潟地区、野崎地区 ⇔目的地：300円 本村地区・中河原地区 ⇔目的地：350円 片島地区 ⇔目的地：400円
		黒崎区・金桁区方面発 ⇒三角中心部着 平日4便 土曜2便	黒崎区・金桁区方面発 ⇒三角中心部着 (平日)8:30,10:00, 13:30,15:30 (土曜)9:30,13:30		
小川町 海東地区	月曜日 ～土曜日	三角中心部発 ⇒戸馳地区・東港四区・東港五区・赤岩区方面着 平日6便 土曜2便	三角中心部発 ⇒戸馳地区・東港四区・東港五区・赤岩区方面着 (平日) 10:30,11:30, 12:30,14:30, 16:30,18:00 (土曜) 11:00,15:00	午前の便 前日の 14:00 ～17:00 午後の便 前日の 14:00 ～17:00 当日の 8:00 ～11:00	表南小川、日岳町など ⇔目的地：200円 野添、宮原、蓮仏など ⇔目的地：300円 弦巻、田中、小園など ⇔目的地：400円
		三角中心部発 ⇒黒崎区・金桁区方面着 平日4便 土曜2便	三角中心部発 ⇒黒崎区・金桁区方面着 (平日) 10:30,11:30, 15:00,17:00 (土曜) 11:30,15:30		
		海東方面発 ⇒小川中心部着 平日5便 土曜2便	海東方面発 ⇒小川中心部着 (平日) 8:00,9:00, 11:00,13:00, 15:00 (土曜) 9:00,13:00		
		小川中心部発 ⇒海東方面着 平日4便 土曜2便	小川中心部発 ⇒海東方面着 (平日) 10:00,12:00, 14:00,16:30, (土曜) 11:00,15:00		

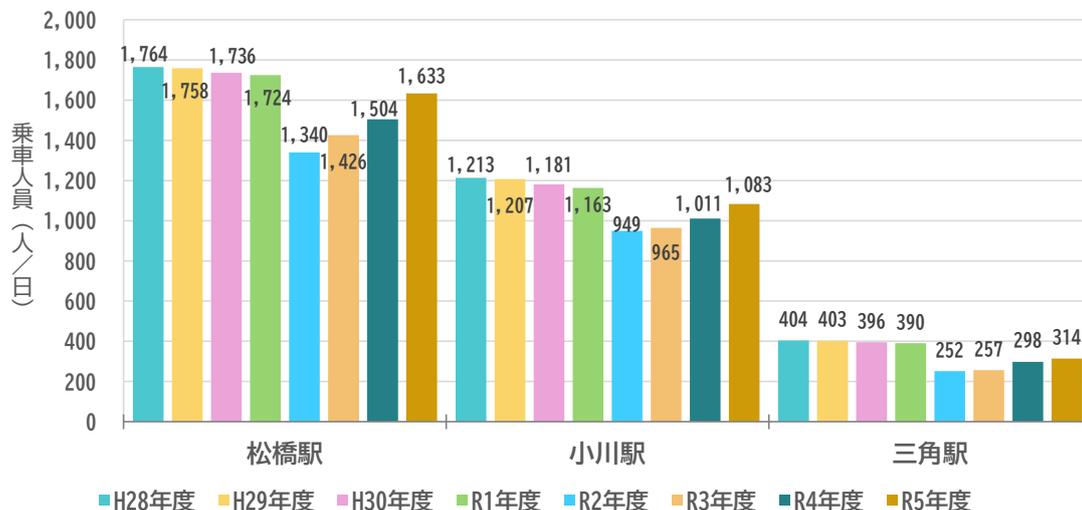
対象	運行日	運行便数	運行ダイヤ	予約時間	利用料金
不知火町 長崎地区	火曜日 ・木曜日	長崎地区発 ⇒不知火・松橋 町中心部着 平日2便	長崎地区発 ⇒不知火・松橋町中心部 着 9:00,13:00	午前の便 前日の9:00 ~17:00 午後の便 前日の9:00 ~17:00 当日の8:00 ~11:00	不知火町中心部 ⇔目的地:200円 松橋町中心部 ⇔目的地:300円
		不知火・松橋町中 心部発 ⇒長崎地区着 平日2便	不知火・松橋町中心部発 ⇒長崎地区着 11:00,15:00		
小川町 小野部田 地区	火曜日 ・金曜日	小野部田地区発 ⇒小川中心部着 平日2便	小野部田地区発 ⇒小川中心部着 8:30,13:30	午前の便 前日の14:00 ~17:00 午後の便 前日の14:00 ~17:00 当日の8:00 ~11:00	北部田、南部田地区 ⇔目的地:200円 北小野、中小野、 南小野地区 ⇔目的地:300円
		小川中心部発 ⇒小野部田地区着 平日2便	小川中心部発 ⇒小野部田地区着 11:35,15:35		

出典：市資料
※令和6年時点

3 地域公共交通の利用状況

1) JR

令和5年度のJR乗車人員は、松橋駅約1,600人/日、小川駅約1,100人/日、三角駅約300人/日となっており、コロナ禍の減少から回復傾向にあります。



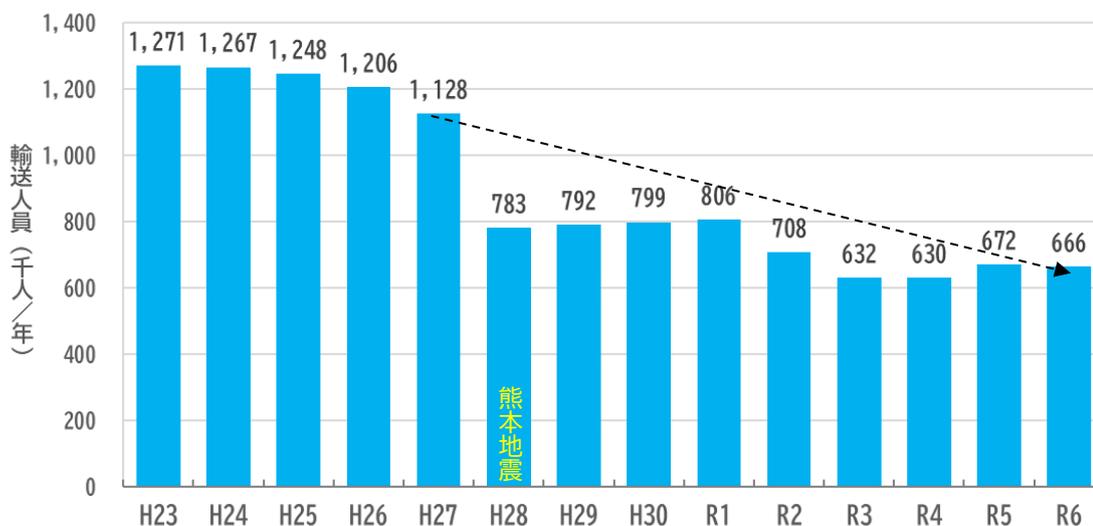
▲ JR駅の乗車人員の推移

出典：駅別乗車人員上位300駅（JR九州：2016～2023年度）

2) 路線バス

路線バス輸送人員は、令和6年に666千人/年となっており、熊本地震前の平成27年値（1,128千人/年）と比較して4割減少しています。

熊本地震やコロナ禍後に大幅に減少し、その後横ばい傾向となっていますが、長期的に見ると地震前の減少傾向が継続した状況にあります。



▲ 路線バスの輸送人員の推移

出典：事業者提供資料

3) 乗合タクシー

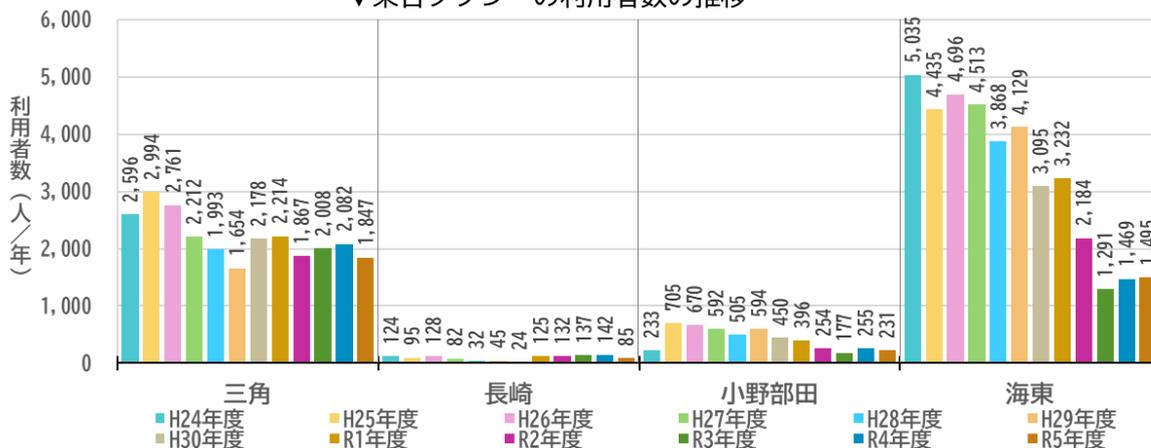
乗合タクシーの利用者数は、三角、小野部田、海東の3地区では長期的に減少傾向にあります。

一方で、長崎地区では利用者数は少ないですが、令和元年度以降増加しています。

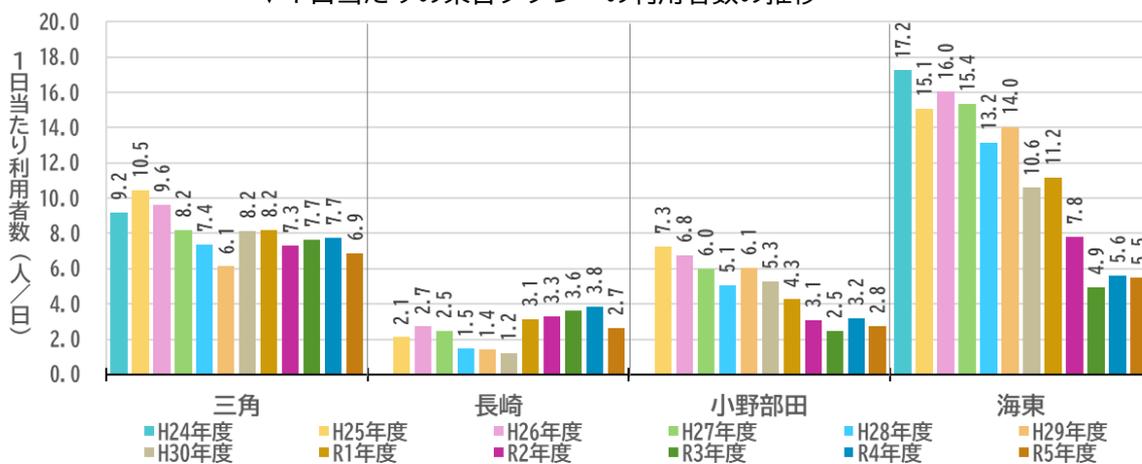
1日当たりの利用者数では、各地区とも10人/日以下の利用であり、12年間で海東地区が7割減少、小野部田地区が6割減少しています。三角町は8人/日程度で定着して利用されています。

また、1便あたりの利用者数では、各地区とも約1.2~1.6人/便の利用となっています。

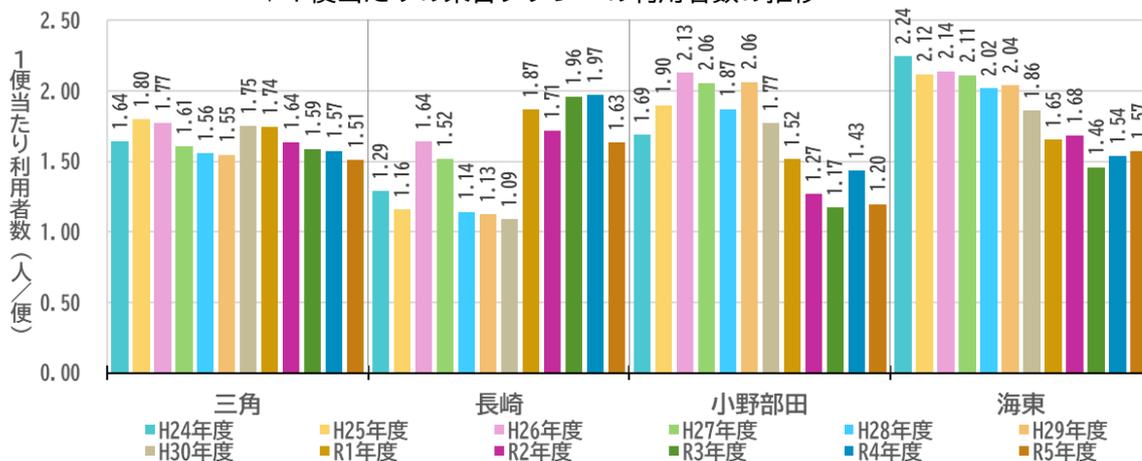
▼乗合タクシーの利用者数の推移



▼1日当たりの乗合タクシーの利用者数の推移



▼1便当たりの乗合タクシーの利用者数の推移



出典：市資料

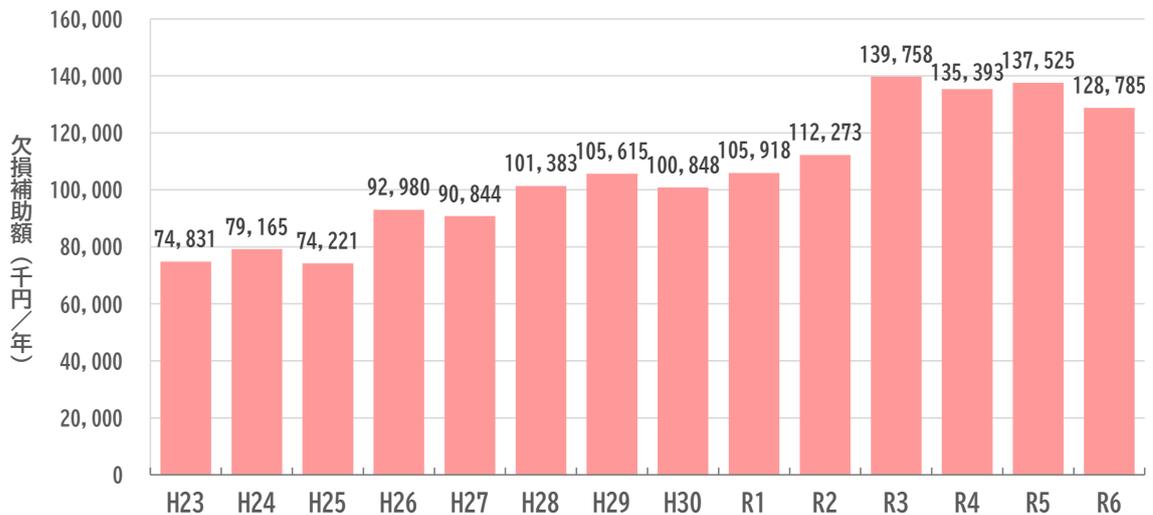
4 地域公共交通に係る財政負担状況

1) 路線バス

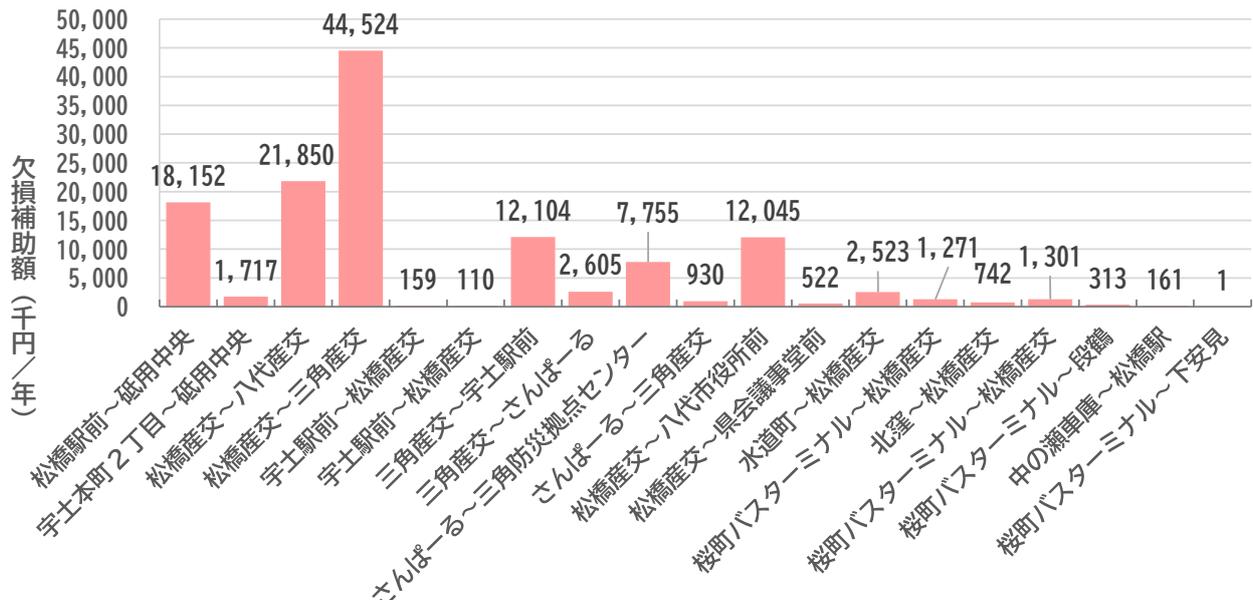
路線バスに対する欠損補助額（国からの特別地方交付税措置あり）は、年々増加し、令和6年度は128,785千円となっており、平成23年度と比較して約1.7倍、約54,000千円の増加となっています。コロナ禍での行動抑制の影響により、令和3年度に急増しています。

要因としてコロナ禍も含めた利用者数の減少だけでなく、燃料費の高騰、人件費の上昇なども影響しています。

また、系統別では、松橋産交～三角産交間が約45,000千円/年と全体の35%を占めて、他の系統より突出しています。その他、松橋～八代間や松橋駅前～砥用中央間の系統が高くなっています。



▲路線バスに対する欠損補助額の推移（前年10月～当年9月までを計上）



▲系統別の補助額（R5.10～R6.9：宇城市補助額分）

出典：市資料

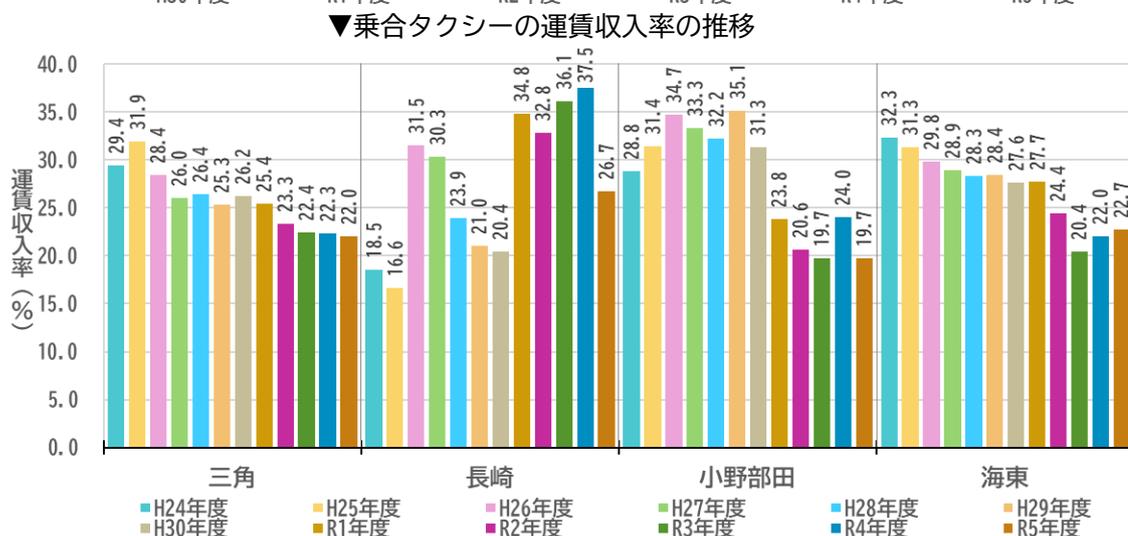
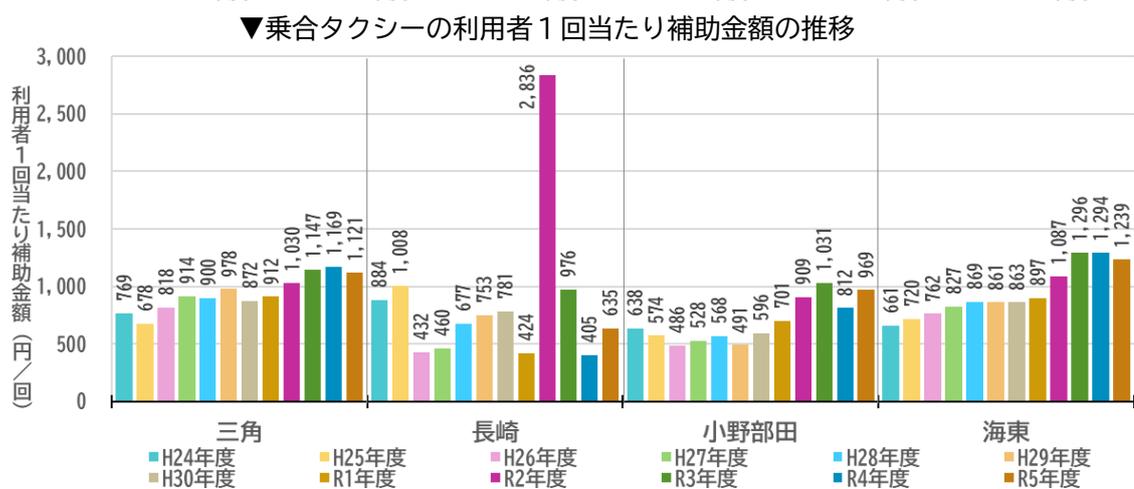
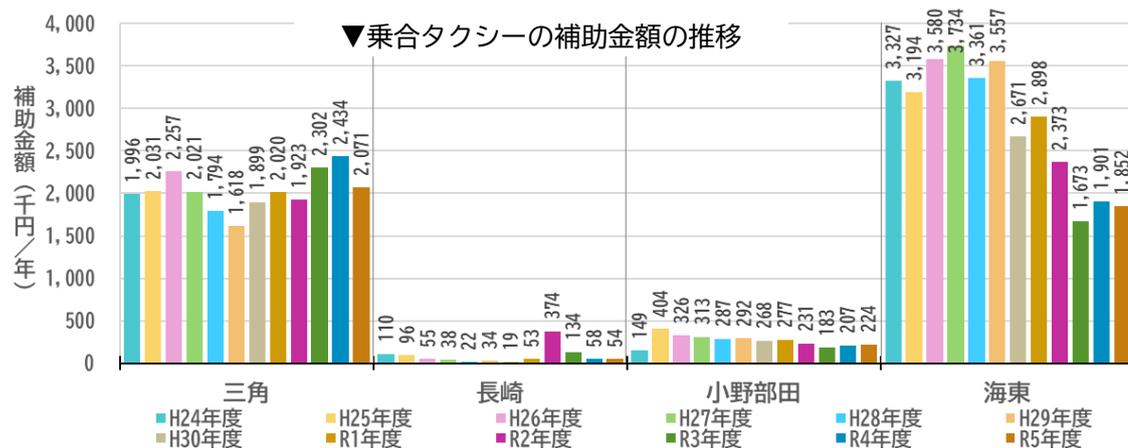
2) 乗合タクシー

乗合タクシーに対する補助金額は、小野部田地区と海東地区では減少傾向、三角町や長崎地区では横ばいから増加傾向となっています。

利用者 1 回あたりの補助金額で見ると、4 地区とも概ね 1,000 円/回相当であり、近年上昇傾向にあります。

また、運賃収入率（運賃収入/経費×100）は、長崎地区を除く 3 地区で低下傾向にあり、近年は 20～25%前後となっています。

長崎地区は上昇傾向にありましたが、令和 5 年度に減少し約 27%となっています。



出典：市資料

5 一般タクシーの状況

本市では市内のタクシー事業者は、6社となっています。各事業者の運転手の平均年齢は60～70代と高齢化が進行しています。（令和6年9月のヒアリング調査結果より）

有限会社 三角タクシー	有限会社 小川タクシー	有限会社 湊タクシー
有限会社 おがたタクシー	有限会社 松橋タクシー	有限会社 おゝ村タクシー

6 スクールバスの運行状況

本市では小中学生の通学手段として、三角町、不知火町、豊野町の計6校（三角小、青海小、三角中、不知火小、不知火中、豊野小）でスクールバスを運行しています。

三角小学校は4路線（定員計152名）の運行に103名、青海小学校は1路線（定員45名）の運行に31名、三角中学校は3路線（定員計72名）の運行に39名が利用しています。

不知火小学校は2路線（定員74名）の運行に31名、不知火中学校は1路線（定員29人）の運行に15名が利用し、豊野小学校は1路線（定員15名）の運行に6名が利用しています。



▼スクールバスの運行概要

学校名	路線名	運行日		登校便	下校便	定員・利用者数
三角小学校	小田良線	—	開校日 (月～金)	1便	2便	〔車両〕 ワゴン車：1 中型バス：3 〔定員〕 152名 〔利用者〕 103名
	黒崎線	平日	開校日 (火・木・金)	1便	3便	
		部活動休日	開校日 (月・水)		2便	
	野崎線	平日	開校日 (火・木・金)	1便	3便	
		部活動休日	開校日 (月・水)		2便	
	片島線	平日	開校日 (火・木・金)	1便	3便	
部活動休日		開校日 (月・水)	2便			
青海小学校	大口線	—	開校日 (月～金)	1便	2便	〔車両〕 中型バス：1 〔定員〕 45名 〔利用者〕 31名
三角中学校	小田良線	平日	開校日 (月・火・木・金)	1便	2便	〔車両〕 ワゴン車：1 マイクロ：2 〔定員〕 72名 〔利用者〕 39名
		部活動休日	開校日 (水)		1便	
	大口線	平日	開校日 (月・火・木・金)	1便	2便	
		部活動休日	開校日 (水)		1便	
	矢崎線	平日	開校日 (月・火・木・金)	1便	2便	
		部活動休日	開校日 (水)		1便	
不知火小学校	路線1	—	開校日 (月～金)	1便	2便	〔車両〕 マイクロ：1 中型バス：1 〔定員〕 74名 〔利用者〕 31名
	路線2	—	開校日 (月～金)	1便	2便	
不知火中学校	—	4～10月 3月	開校日 (月・火・木・金)	1便	3便	〔車両〕 マイクロ：1 〔定員〕 29名 〔利用者〕 15名
			開校日 (水)		1便	
		11～2月	開校日 (月・火・木・金)		2便	
			開校日 (水)		1便	
豊野小学校	—	—	開校日 (月～金)	1便	2便	〔車両〕 ワゴン車：1 〔定員〕 15名 〔利用者〕 6名

※土曜日及び春季・夏季・冬季休業期間の運行分は除外

※利用者数はR6.4時点

出典：市資料